

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	緑のカーテン事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	緑のカーテンは、つる性植物を建物の壁面にはわせ、夏の強い日差しを和らげるもので、地球温暖化防止に大きく役立つことが期待できる。緑のカーテン・コンテストを実施し、市民、事業所等に緑のカーテンへの取組を募集し、優秀なものを表彰するとともに市の広報紙等で紹介し、啓発・普及を推進する。24年度から、公共施設を部門に加え、より一層の取組みの促進を図っている。また、25年度からは県と連携して実施している。環境業務センター等で緑のカーテンを実施するとともに、全庁的な拡大を図っている。				
	3年度概要	環境業務センターにおいて緑のカーテンを実施するとともに、各局にも依頼し、推進に努める。「緑のカーテン・コンテスト」を実施し、家庭、事業所および学校・保育所・公共施設各部門に分けて取組の募集を行い、優秀なものに対して表彰、副賞の贈呈を行うとともに、市の広報紙やホームページで紹介することにより、啓発・普及を促進する。			
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	インフラ・施設等整備		

【事業の目的】

対象(何を)	市内の住宅、事業所及び学校・保育所・公共施設
意図(どのような状態にしたいか)	緑のカーテンを普及させることにより、温室効果ガス(二酸化炭素)の削減等、省エネルギーの推進を図る。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
緑のカーテン説明会実施回数	回	9	9	8	10	10

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
成果指標	「たかまつ緑のカーテン・コンテスト」応募件数	件	目標値	112	120	120	120	
			実績値	112	148	196		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 29年度の緑のカーテン・コンテストへの応募件数は、目標値を上回る応募があり、普及・啓発が図られた。 (目標達成度)						(達成度) 163.3% 35点	
	成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	平成31年度(予算)
トータルコスト	[円]	3,340	3,273	2,481	2,506
(事業費)	[円]	200	238	212	237
(職員人件費)	[円]	3,140	3,035	2,269	2,269

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)			
緑のカーテンは市民が気軽に身近に取り組むことができる地球温暖化防止活動であり、緑のカーテン・コンテストには毎年100件を超える応募がある。これまで県と市でそれぞれコンテストを実施していたが、事務の軽減とコストの縮減を目指すため、コンテストの一元化をすすめる。			
【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)			
市単独でのコンテストは終了する。なお、コンテストに関しては市としては10年間実施してきており、市民に定着していることから、講習会等の普及啓発は継続する。			

平成30年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	地球温暖化対策室
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	087-839-2394
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	電気自動車等普及促進事業		事業期間	平成28年度～令和5年度

【事業全体概要】

事業の概要	本市地球温暖化対策実行計画に基づき、市域における温室効果ガス排出量の抑制を図るため、走行時に二酸化炭素等を排出しない電気自動車を公用車として率先的に導入し、車体ラッピングにより市内を走らせるなど、環境負荷の少ない電気自動車の普及促進を図る。			
3年度概要	車体ラッピングを施した公用電気自動車を、市内を走らせることで電気自動車の普及啓発を行うとともに、環境展等で紹介することで市民に電気自動車への理解を深めてもらう。また、市が設置した市内3か所にある道の駅（近隣地を含む）の急速充電設備の運用を行うとともに、充電インフラの情報をHP等で提供する。			
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	事務事業の類型	内部管理事務

【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	環境に負荷の少ない電気自動車を多くの市民に周知することにより、自動車の新規購入や買換えの際における電気自動車購入の意識付けを行う。また、市が設置した急速充電器の運用を行うとともに、市内の充電設備の情報提供を行うことなどにより、電気自動車の普及を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
電気自動車（公用車）の走行距離	km	43,578	44,415	39,929	112,000	104,000
公用車における電気自動車導入数（累計）	台	11	12	9	10	9

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
市内における電気自動車保有台数	台	目標値	305	392	502	641	816
		実績値	258	318	367		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	1000 800 600 400 200 0 H26 H27 H28 H29 H30 H31 R2 R3						(達成度) 73.1% 25点
市内における電気自動車保有台数について、30年度は、当初の目標を135台下回った。 (H30 目標 502台 実績 367台)							
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	1 0 H26 H27 H28 H29 H30 H31 R2 R3						(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（予算）
トータルコスト	[千円]	24,188	8,552	8,634	9,408
（事業費）	[千円]	16,337	965	1,072	1,846
（職員人件費）	[千円]	7,851	7,587	7,562	7,562

【評価】

評価ランク (A～D)	C	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	縮小
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

環境に負荷の少ない電気自動車を公用車として新たに1台購入し、車体ラッピングをして市内を走らせることで電気自動車の普及啓発を行うとともに、環境展等で紹介することで市民に電気自動車への理解を深めた。また、市が設置した3か所（道の駅及びその近隣地）の急速充電設備の運用を行うとともに、充電インフラの情報をHP等で提供した。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

市内における電気自動車等保有台数は増加してきており効果は出ていると思われるが、費用対効果の点では見直しの余地があると考えられる。普及啓発にはすでに保有する9台の電気自動車を活用することとし、今後の社会状況を注視しつつ、当面新たな電気自動車の購入は見送る。

平成3年度（30年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	地球温暖化対策室
	施策	地球温暖化対策の推進		電話番号	2394
	基本事業	低炭素社会に向けた行動の展開		事業実施主体	市
	事務事業	COOL CHOICE 啓発事業		事業期間	平成29年度～令和2年度

【事業全体概要】

事業の概要	市域における温室効果ガス排出削減を図るため、省エネ・低炭素型の製品やサービス、行動など、地球温暖化対策に繋がる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」の普及啓発を推進する。				
	3年度概要 市域における温室効果ガス排出削減を図るため、省エネ・低炭素型の製品やサービス、行動など、地球温暖化対策に繋がる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」を啓発する。				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	2-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	市民、事業者
意図（どのような状態にしたいか）	市域における温室効果ガス排出削減を図るため、省エネ・低炭素型の製品やサービス、行動など、地球温暖化対策に繋がる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」の普及啓発を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
たかまつCOOL CHOICEキャンペーン参加者数	人			206	150	150

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H28	H29	H30	H31	中期目標 R2
成果指標	本事業によるCOOL CHOICE賛同者数	人	目標値			200	150	150
			実績値			206		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 参加者数が増えることで、地球温暖化防止のためのCOOL CHOICE（賢い選択）実践者数が増加し、市域における温室効果ガス削減に繋がる。平成30年度は、予定を上回る賛同者数を得た。（H30年度 目標200人 実績206人）							(達成度) 103.0% 35点
								(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（決算）	平成31年度（予算）
トータルコスト	[千円]			13,032	12,562
（事業費）	[千円]			5,470	5,000
（職員人件費）	[千円]			7,562	7,562

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
昨年度は子供から大人まで幅広い層を対象に、電車ラッピング電車を走行させるなどの情報発信型及び水素教室といった体験型事業をはじめ、香川大学と連携し子供向けリーフレットを作成するなど、話題性のある新しい取り組みを実施した。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
昨年度の成果物であるリーフレットを市内小学生に配布、ラッピング電車走行の路線を変更し、高松工芸高校生徒がデザインした電車を走行させ啓発するほか、新たな事業としてZEHハウス宿泊体験を実施するなど、話題性のある事業を実施する。			